

与論島を活性化させるためには どのようなことをすればよいか

工学部 建築学科 一年

有馬 真輝 2515230041

私はこれまで与論島がどこに位置し、どのような島であるか全くしらなかった。この授業の中で島の様々な分野の方からお話を聴き、与論島の現状について知ることができた。

実際見学して感じたことは、コーラルリーフに囲まれた海がとても綺麗で、特に百合が浜は多くの人に知ってもらいたいところだということだ。よって、与論島を活性化させるためには、観光業を中心に考えることが一番良いと思う。与論島は1970年代から世間の脚光を浴び、観光地として一気に観光客が増加したそうだが、沖縄の日本返還により沖縄への観光客増加により年々与論島への観光客は減少し、現在はピーク時から約90,000人も減少している。このように減少していることから、町の建物は古くシャッターを閉めている店が多くみられた。観光客を呼び込むためには、新しく建て替えたり、古い建物を整備し直したりすることが必要だと思う。しかし、まず観光地として整備するための資金が必要であり、そのために他の産業を先に発展させていくと良いのではないかと考えた。島には荒地となっている土地が多く見られ、そこでサトウキビやイモ類の生産を増やし、さらには畜産業で資金を増やしていくことが良いだろう。また、別荘地として全国にPRしてみるのも良いのではないだろうか。ゆったりと時間が流れている与論島は日々の疲れを癒してくれると思うので、メディアやSNSなどを通して誘致活動をするべきだ。そして、島の周辺では南の島ならではの珍しい魚が獲れるので、最近始められた瞬間冷凍法を利用して、大阪、東京など遠方まで出荷することでも資金を増やすことができると思った。このようにして資金を増やすことに成功すると、観光地またはリゾート地として島を整備することができる。これもまたメディアやSNSを通して宣伝

することで昔与論島を訪れたことのある人や今まで与論島のことを知らなかった若者などの興味を引くことができるだろう。実際に一度メディアで与論島を知っていた友達はとても与論島に行ってみたいと言っていた。観光業では、マリンスポーツに力を入れることはもちろんであると思う。他に、サザンクロスセンターや民俗村など島の伝統・文化を知り体験できるところがあるが、レンタカーを借りなければ訪れるまでの道が大変だということである。レンタカーを借りるにはお金もかかり、免許を取得していない方も多くいると思う。だから、町の中心からシャトルバスを出したり、バスの本数を増やしていったりするとより観光が便利になるだろう。

ここまでは、観光業について述べてきたが、やはり島の住民の高齢化が進んでいるということは観光業が伸びてきても対応できる人が足りなくなるということだ。ゆえに、観光業を考えるとということと共に若者の定住化が重要になるだろう。行政の方から、出産をはじめとする医療に関して昔より充実してきたと伺ったが本土の人が移住しようと考えた時不安になることがまだまだ多いと感じるだろうと思った。離島の医療の問題は難しいと思うが、島に来た観光客の急な病気にも対応できるよう、医者を島に定住してもらうための呼び込みもしていくべきだ。

与論島は本当に綺麗な島であり、沖縄県にも観光スポットとして引けを取らないだろう。だから、観光業を中心にもっと発展させていくと、与論島も活性化すると私は考える。